

No	環境要素等	意見等の内容	【事業者】見解・対応	【事務局】意見等の取扱いについて ○：答申書素案へ反映	
1	動物	計画段階環境配慮書4-34において、「予備調査でチゴモズが確認されたが、一時的な利用と見られるため、影響は小さいものと予測する（一部省略）。」となっています。一方、その後の調査が行われたかどうか記述がありません。 チゴモズは環境省により絶滅危惧IA類に指定されている極めて生息個体数の少ないスズメ目モズ科の鳥であり、樹木と草地が組み合わされた環境で繁殖しています。日本鳥学会の日本鳥学会誌2023, 4 Vol. 72, No. 1 p67-76「日本海沿岸部におけるチゴモズLanius tigrinusの分布と個体数」（田悟和巳ほか）によれば、新潟県から秋田県の沿岸域のクロマツ林と耕作地（草地含む）で160つがいが生息していると推定され、国内で唯一のチゴモズがまとまって繁殖しているエリアであり、国内の個体数の大部分を占めていると考えられる。」と報告されています。また、県内では新潟市西区の公園林などで少数が繁殖していることが野鳥の会などにより報告されています。これらのことから、環境配慮書4-34図4.3.2-3に示されている環境は、チゴモズの繁殖に好適な環境であると考えられ、一時利用のみならず発電所敷地内の緑地で繁殖している可能性が考えられます。チゴモズは国内でも極めて個体数の少ない希少種であることから、繁殖期における追加調査、および発電所リプレース時において、現状と同等の樹木・緑地環境を再現することを検討する必要があると考えます。尚、同環境は両生類のアズマヒキガエルの生息環境としても好適であると推測されます。	鳥類については、別紙1のとおり2021年4～7月及び2023年1～3月に定点調査と任意踏査による予備調査を実施しており、ご指摘のチゴモズは2021年5月に1回のみ定点調査で確認したものの、営巣はなかったため、一時的な利用の可能性が高いと判断しました。今後、現地調査において営巣が確認された場合には、さらに詳細な調査を実施します。 また、今回の配慮書は文献調査を主体に重要な種を抽出したものであり、予備調査でも両生類の調査は実施していません。ご指摘を踏まえ、アズマヒキガエルを含め今後の現地調査について検討して参ります。	○	事業実施想定区域において、環境省が絶滅危惧IA類に指定しているチゴモズが確認されていることから、方法書において調査の方法を示し、事業の実施に伴う影響について適切に予測及び評価を行うこと。
2	その他（埋蔵文化）	このリプレース計画地と同じ新潟砂丘新砂丘に立地していたと考えられる出山遺跡が新潟東港の中央水路掘削時に発見されています。出山遺跡は8世紀、奈良時代の土器製塩遺跡です。土器製塩というのは、海水を土器で煮詰めて塩を採る方法で、新潟市歴史博物館（みなとぴあ）の展示にも見られます。その貴重な埋蔵文化財に関する項目が配慮書には抜け落ちています。位置的に見て、出山遺跡は計画されている7号機と同じ並びに立地していたとみられます。遺跡の発見されたレベルは海水面と同じか、それより数メートル上ということで、当時の写真を見ると数メートルの高さのある砂丘の基部に位置します。はまなす館に展示されていた昭和45年7月の写真では、周囲より数メートル下に基礎工事が行われています。以前の開発行為で、どのくらいのレベルまで攪乱が及んでいるか不明ですが、今回の開発行為は慎重に実施する必要があります。もしも、建て屋を建てる地下を掘削するならば、事前の試掘調査が望まれます。また、仮に埋蔵文化財が確認された場合は、設計変更を求めるか、文化財保護法に則り記録保存を前提とした本発掘調査が必要になります。	本リプレース計画は既に設備がある場所に新たな設備を設置するものであり、海域での浚渫や掘削の工事予定はありません。 発電所用地は昭和45年に新潟県殿より有償譲渡を受け、その後、標高約8mに敷地レベルを整地しています。1号機の建設工事にあたり、別紙2のとおり本館や煙突等の主な構造物については、基礎設置のため敷地レベルから最大約8m掘削し、埋戻しています。その後の2号機、3号系列、4号系列の建設においても同様な工事を行っていますが、埋蔵文化財は見つかっていません。 ご指摘の7号機の配置は既設1,2号機エリアであり、埋蔵文化財が確認される可能性は低いと考えられますが、今後、対応を検討して参ります。		事業者の回答を以って了解としたい。
3	水質	取水口に近い新潟東港内の海水と温排水放水口沖合の海域の海水は、環境基準値を超えるほどCOD値が高くて増加傾向にあること、さらに放水口沖合の海域におけるCODの増加には内部生産が寄与していること、などの調査結果が新潟県より報告されています。また今回のリプレース事業によって冷却水の使用量が減ったとしても、新潟東港内の水深の深い部分から毎秒100t以上の冷却水を取水して東港周辺海域表層に温排水が放出されることとなりますが、このことは、新発田川放水路や福島潟放水路を通じて東港内に供給される各種栄養塩類、有機物などの東港内外への循環過程に多大な影響をあたえるだけでなく、東港周辺海域に生息する植物プランクトンの生育にも影響を与える可能性が考えられます。以上の点から、冷却水の取水・温排水の放出と東港周辺海域におけるCODとの関連について、また計画段階配慮事項として選定する項目に水質を加えることについて、事業者側の見解を伺いたいです。	冷却水量については、港1・2号機の廃止により減少しているものの、ご指摘のとおり、現状、1号機～4号系列において合計124.1m ³ /sの冷却水を取水し、放水しています。本リプレース計画では、冷却水量を現状の124.1m ³ /sから約106.3m ³ /sとし、さらに低減する計画としています。 4号系列建設にあたっては、アセスを実施し、運転後にモニタリング調査を実施しています。結果は別紙3に示すとおり、運転開始（4-1号機試運転開始）前後における水質測定値の差は以下のとおりであり、顕著な差はなかったとして新潟県殿に報告しています。 ・COD：運転開始前1.3～2.5mg/L、運転開始後1.1～3.0mg/L ・T-N：運転開始前0.12～0.40、運転開始後0.16～0.47mg/L ・T-P：運転開始前0.013～0.021mg/L、運転開始後0.011～0.028mg/L ・植物プランクトンの細胞数：運転開始前112～8770細胞/L、 運転開始後25～9578細胞/L 今後、周辺海域において深さ別のCODや温度などを測定することで、詳細に調査します。	○	当該事業は冷却水量の減少等により環境負荷を低減する計画としているが、排水の排出先である新潟東港の海域はCODの環境基準が未達成であることから、取放水の流動に伴う海水の移動等を踏まえ、当該水域の水質及び動植物への影響について適切に予測・評価すること。

No	環境要素等	意見等の内容	【事業者】見解・対応	【事務局】意見等の取扱いについて ○：答申書素案へ反映	
4	大気	特殊気象の発生状況や頻度を把握できるような観測体制や、中で空気を攪乱するので非常に捉えるのは難しいかと思うが、そういった状態でどのように空気が動くのかということについて配慮した今後の調査をお願いしたいと思います。	現地での地上気象観測では特殊気象の発生状況は確認できないことから、高層気象観測において高さ別の風向・風速及び気温を測定することで特殊気象の発生状況及び発生頻度を把握します。	○	事業実施想定区域周辺の気象データ及び特殊気象条件を踏まえたうえで、適切な予測・評価を行うこと。
5	景観	既存の煙突が200mだと、例えば新しい煙突を59mにした場合、高低差が非常に大きくなります。遠方からは全体が見えると思いますが、その場合にこの高低差というのは、景観には影響がないのでしょうか。	現状、200m煙突を3本及び150m煙突を1本設置しており、遠くからも良く視認されていますが、ご指摘のとおり、例えば6・7号機で100mの煙突を採用した場合、200m煙突が2本及び100mの煙突が2本になることで、別紙4のとおり煙突間の高低差が景観の変化として生じる可能性があります。 一方、煙突や建物は視認できる部分が少ない方が景観的には影響は小さいと考えられることや、現状では煙突高さも確定していないことから、準備書では詳細なモンタージュにより景観への影響をお示しします。		事業者の回答を以って了としたい。

【 関係課意見 】

No	環境要素等	課名	意見等の内容	【事業者】見解・対応	【事務局】意見等の取扱いについて ○：市長意見案へ反映	
6	大気	環境対策課	今回のリプレイス事業では、6号と7号の2基の設置であるが、二酸化窒素の年平均値の予測・評価において、予測原点を既存の4号系列煙突1か所とした意図を伺いたい。	二酸化窒素の年平均値は、配慮書(参考-1～参考-3)に示す予測計算式に基づき大気拡散シミュレーションを実施し算出しました。大気拡散シミュレーションに当たっては計算上の原点を定める必要があり、今回はリプレイス前後で位置が変わらない4号系列の煙突を計算上の原点(x=0, y=0)と定め、6・7号機の煙突を排出源として配慮書p10に示す位置・座標に配置し、計算メッシュを法アセスで実績のある500mとして計算しました。 なお、計算上の原点は他の位置とすることも可能ですが、原点の設定位置によって年平均値の計算結果が変わることはありません。		事業者の回答を以って了としたい。
7	大気	環境対策課	今回の設置は2基であるが、窒素酸化物における年間値の予測結果は1基分しか行っていない。（特殊気象条件下では2基分を予測している。）1基分しか行っていない意図を伺いたい。	年平均値は、配慮書p190に記載のとおり6・7号機の2基を煙源とした予測条件にて算出しています。このため、配慮書p191～194に示す年平均値や濃度分布については2基の結果を示しています。これは、使用したシミュレーションソフトによるものであり、年平均値については煙源2つ以上を一度に計算できますが、特殊気象条件については煙源1つしか計算できません。 なお、配慮書においては簡易な予測手法が認められているため本ソフトを使用しましたが、準備書においては複数煙源にて計算できるシミュレーションソフトを使用することで考えています。		事業者の回答を以って了としたい。
8	大気等	環境対策課	方法書以降で以下の点を示してほしい。 ・現状煙突高さや設置場所が複数あることから、これらが確定され次第、その根拠を明らかにしてほしい。 ・現地の気象データを取得し、予測を行ってほしい。 ・事業実施想定区域周辺に建設中のバイオマス発電2基影響も加え、予測・評価を行ってほしい。	配慮書p10に示す配置や今回複数案を設定した煙突高さ(59m, 80m, 100m)については、方法書までに検討を進め単一案として、その理由とともにお示しします。 現地気象観測について、配慮書p201に記載のとおり、特殊気象の発生有無等が分かるような手法等を検討しており、方法書にてお示しします。 バイオマス発電については、アセス手続中または建設中で運転開始を控えている発電所があることは、当社としても配慮書p30に記載のとおり把握しており、今後、両事業者に確認しつつ、大気拡散予測や工事中の予測・評価など必要な項目については重畳予測を検討して参ります。	○	・煙突高さや配置について複数案を設定しているが、方法書以降の手続きにおいてこれらを確定する際は、その根拠を明らかにすること。 ・事業実施想定区域周辺の気象データ及び特殊気象条件を踏まえたうえで、適切な予測・評価を行うこと。 ・同時期に事業実施想定区域周辺でバイオマス発電施設の建設が予定されているため、方法書以降の手続きにおいては、複合的な影響についての予測・評価を行うよう努めること。